

# 蹴友



開成サッカー部  
OB会誌 No.36  
2013年10月15日

会費の払い込み、よろしくお願いいたします。

会費は、社会人OBの方には、年度会費一口五〇〇〇円、四〇歳以上の諸氏には、なるべく二口以上お願いしています。なお、従来の郵便振込用紙のほかに、郵貯銀行への直接の振込みもできます。  
※振込口座は12ページを参照のこと

平成二十五年

## OB会 総会

日時 平成二十五年十一月二十三日（土曜日）

■今年も勤労感謝の日に開催

ゲーム 於・母校グラウンド／午後一時より

■時刻はキック・オフ 集合は三〇分前

総会・懇親会 於・母校食堂 五時～七時

会費 社会人 壹万円、40歳未満は五千元

学生 貳千元 現役生 招待

▼ 同封の返信用葉書に出欠等を記入の上、十一月十五日（金）までに必ずご返送下さい。会員名簿の資料になります。ご協力下さい。

▼ ゲーム 年配者にも優しい企画を心がけます。小雨にても決行。

▼ 懇親会 現役生も参加予定。会費にその食費も折り込んで設定。



▼二〇二〇年東京オリンピックの開催が決まった。トルコ、スペインの、謂わば敵失で勝利したような趣もあって、後味が悪いような気がしないでもない。▼拙宅の近所に店の名が「オリムピック」というパン屋がある。創業が一九三五年。盛り上がったのであろう、日本中が。さて、これから七年弱、誰が、どのような太鼓を叩くのか。▼オリンピック、その時々で様々な難問に直面して来た。東京大会、開催時期が深刻な課題になる気配だ。八月開催説もあるようだが、激しく体力を消耗する運動競技を経験した者なら、また最も強く美しい競技展開を期待する者なら、八月など、スポーツの祭典としては最悪の時期と思うはずだ。▼何事にも経済的利益優先の時代、オリンピックも例外ではなからうが、最も大切にされなければならないのは競技者で、国威でも首長の名誉でも、もちろん金儲けでもない。

（順）

## OB会会長就任にあたり

昭和47年卒 中村 利尚

この度、昭和40卒の藤崎先輩の後を引き継いで四代目のOB会会長に就任することになりました昭和47卒の中村です。まず始めに、5年間に渡りOB会会長を務めていただいた藤崎先輩にOB全員を代表して御礼申し上げます。

さて私は、これまでの5年間、副会長として藤崎前会長を補佐して参りましたが、今年ちょうど還暦を迎え37年超のサラリーマン生活を卒業したのを機に、若輩ですがOB会会長をお引き受けすることにいたしました。長いサラリーマン生活に飽きが来ていたのも事実ですが、十分な時間があるのでこれまで以上に現役やOBチームの試合を観に行くことが出来ること、また、その他のOB会活動（春のフットサル大会、秋のOB会総会等々）に時間と労力を割くことが出来ることを楽しみにしています。

私の新会長としての一番重要な役割は、これまでOB会をリードしていただいた諸先輩の世代と私以下の世代及び一学年30名前後もいる若い世代さらに中高生の現役世代との「世代の繋がり」をさらに太いものにしていくことです。会長兼OB



チーム監督として私自身もこれまで以上に動き回って参りますので、お力添えの程よろしくお願い申し上げます。

## OB会副会長就任にあたり

昭和43年卒 俵 新

昭和43年卒業の俵新（たわら しん）です。この度開成サッカー部OB会の副会長に選任さ



れましたのを機に御挨拶をいたします。私のサッカーとの出会いは、勧誘されて中学2年の時に入部したことに始まります。当時は部員も少なく、中学、高校それぞれが1チーム作るのがやっとといった状況で、ある時は坊主頭の中学生で高校の試合に出たこともありました。榛原や白馬での苦しかった合宿が思い出されます。開成卒業後は東大でもサッカー部に所属し、4年間レギュラーとしてプレーし、社会人になってからも海外赴任の時期を除いて東大サッカー部のOBチームでプレーをしてきました。現在も東京都の60歳以上の人達で構成されるクラウンリーグに加盟して「公式戦」を勝負にこだわって戦っています。そのような訳で卒業後の開成サッカー部との縁は、同期の連中と飲んだり、OB会の忘年会に参加したりする程度であり深いものではありませんでした。数年前から東大サッカー部がメールマガジンを発行して、現役の公式戦や練習試合の結果と出場メンバーを出身校付きで知らせてくれるようになり、その中に開成出身の選手を見つけ

ては応援しています。開成サッカー部の現役や若手OBの活躍については、皆さんご

承知の通り、今回選任された中村会長がこまめに詳しいレポートを送ってくれるのである程度は承知していますが、我々の現役時代とは違って、大勢の部員が所属するサッカー部をどのようにサポートしていくか会長を補佐して微力を尽くしたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

## 俵新君OB会副会長への推薦状

昭和43年卒 望月 宗夫・昭和43卒一同

俵君は、中2の時に灘中から転校してきました。彼が頭角を現したのは、中3になった頃からでした。練習では要領よくシゴキをさせ体力を温存して、試合になると、CFとして得点を重ねてくれるのです。しかもそのシュートはクリーンシュートというのではなくて、ゴールポストの隅の方にチョロチョロと入れるという省エネ型なのです。

そんな彼が現役で東大サッカー部に入り、4年間レギュラーを取り、現在も東大OBとしてサッカーを続けているという事で、そのキャリアを当OB会に生かせるよう推薦いたします。



左から平林、望月、本杉、平山、右端が俵新副会長

## OB会副会長就任にあたり

昭和55年卒 山田 壽一

この度、昭和47卒の中村利尚先輩の会長昇格に伴い、副会長に就任することとなった昭和55年卒の山田です。現在、盛岡勤務でありOB会での職務遂行にやや不安を感じておりますが、情報通信の発達した時代でございますので、何とかこなして参りたいと思います次第でございます。

さて私は、30年ほど前の学生時代に、その頃ほとんど休眠状態だったOB会活動の活性化の命を、福岡勤務から東京に戻られた中村先輩から受け、まず始めにOB会名簿の確認作業を行ったというのがOB会との関わりの端緒でございます。当時はまだパソコンは普及せず、ワープロがはちばち回り始めた時期であり、手書きでOB会名簿を編纂し、久しぶりにペンダコができたという記憶が蘇って参ります。このおかげで、諸先輩のお名前は結構いまでも記憶しているというメリットもございましたが・・・。

我々の世代も早いもので50歳を超えることとなりました。副会長としては、同期諸氏並びに現役時代に活動を共にした周辺年次の皆様方のご協力を得ながら、諸先輩方と若い世代との懸け橋となるべく微力ながら努めて参りたいと存じますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。





## 観戦記―中学

### 東京都私立中学サッカー大会で二年連続 Best 4！

中学は、8月22日から開催された東京都私立中学サッカー大会（74校）において、都市大中（3・0）、日大豊山中（6・0）、桐朋中（1・0）と連破し Best 8 に進出、昨年に引き続き東京都代表（8校）として年末年初に行われる首都圏私立中学チャンピオンズカップ（16校）への進出を決めた。さらに準々決勝では法政大中を3・2（2・0、1・2）で破り Best 4、準決勝では残念ながら優勝した駿台学園中に0・4（0・2、0・2）で敗れたが、2年連続の Best 4（3位決定戦は無し）は実力が付いた証拠と言える。尚、昨年の首都圏私立中学チャンピオンズカップでは予選リーグで敗退したので今年は



決勝トーナメント進出を期待している。

### 快挙！ 東京都中学選手権大会で第4位！

中学は、7月23日から開催された東京都中学校選手権大会（48校）において、大泉北中（2・0）、町田南中（5・0）、十条富士見中（1・0）と連破し Best 8 に進出、さらに準々決勝の対稲城第六中では3・2（0・1、3・1）という見事な逆転で勝利し何と Best 4 となった。その後の準決勝の対本郷中は0・1、3位決定戦の対慶應義塾中は1・2（0・2、1・0）と共に惜敗したが、東京都 Best 4 は実に素晴らしい快挙である。若手OBに聞いてみると、近年で最も強かったと言われるH23卒が中学の新人戦で Best 4 になったことがあるようだが、中3も含めた大会（私学大会は除く）では初め



東京都中学校体育連盟サッカー専門部のHP → <http://www.soccer-tokyoctr.jp/>

てのようです。

### ★春季サッカー大会都大会（32校）に進出出来ず！

中学は、4月27日、東京都中学校春季サッカー大会第5支部予選（足立区、荒川区、中央区、千代田区の46チーム）の予選トーナメント2回戦で足立四中に0・1で敗れ、決勝リーグ進出（4チーム×2ブロックの決勝リーグ一位が都大会に進出）を逃した。

## 観戦記―高校

### 高校サッカー選手権大会地区予選二回戦でPK負け！

高校は、8月16日（金）高校サッカー選手権大会地区予選（江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川区）のブロックトーナメント（11校）2回戦で葛飾総合高校と対戦、前半5分にセットプレーから失点、後半終了間



際に追いつきPK戦に持ち込んだが、4・5で敗れた（昨年度はブロック決勝まで勝ち進んだが敗退）。

### 高校総合体育大会東京都東支部予選のブロック決勝で惜敗！

高校は、5月4日（祝）高校総合体育大会東京都東支部予選（第1地区・江戸川区・江東区・葛飾区・墨田区・荒川＋第2地区・足立区・文京区・豊島区・中央区―63校）のブロックトーナメント（7校）の決勝で都立東と対戦したが、0・1（0・1、0・0）で惜敗。昨年度に続き都大会（ベスト56）進出を逃した（昨年度はブロックトーナメント決勝で私立京華に3・3からPK負け）！



※首都圏私立中学チャンピオンズカップのHP → <http://www.shigakusoccer.jp/>

## 観戦記―OBチーム

### 荒川区選手権大会（平成24年度）で初優勝！

5月26日（日）、荒川区選手権大会（17チーム）決勝でシーラカンスと対戦、1・1の同点からの延長戦でも決着が付かずPK戦となったが何と5人全員が決めて5・3で勝利、初の荒川区選手権優勝を遂げた。

### △試合経過―30分ハーフ▽

この日も14・15キックオフの都リーグの試合と重なり、都リーグに出場したメンバーは終了後急いで移動したが、16・00キックオフ時点では現地集合メンバー中心で10人という苦しい状況でスタート。しかし、前半はワンチャンスを生かしてFW陣屋の得点で1・0という形で終了。後半に追加点を奪えばそこで試合は決まる状況だったが、ダブルヘッダーの疲



れからか押しているが決めきれない。1・0での逃げ切りで充分と考え出した25分過ぎに、相手のエースFWが蹴った右CKをGK吉田がフェスティング、しかし上手く裏に走り込まれてヘディングで押し込まれ同点にされた。前後半5分ずつの延長も決勝点を奪えずそのまま終了、PK戦となった。流れからしてPK負けのパターンだったが、準決勝のPK勝ちでPK負けの呪縛が解けたのか5人全員が自信を持って決め、5・3で勝利。参加4年目での初優勝を飾った（OBチームは、荒川区ではリーグ戦とトーナメントの区民大会、選手権大会の三冠を目標にしています）。

### 東京都社会人リーグ

今年度も1位での3部昇格は難しい…！？

7月20日（土）東京都社会人リーグ（4部5ブロック―10チーム）の第7戦でトレフォイルFCと対戦、2・1で勝利し通算で4勝1敗2分となった。



荒川区サッカー協会のHP → <http://www.arakawafa.org/>

### 荒川区社会人リーグ

昨年度優勝チームがまさかの3連敗！

7月15日（祝）に行われた荒川区社会人リーグ（8チーム）の第3戦でCONFIANZAと対戦、猛暑の前日に都リーグの試合をした疲れが残っており動きが鈍く0・4（0・2、0・2）と完敗、昨年度のリーグ全勝優勝&選手権大会優勝チームが想定外の開幕3連敗となってしまった。



### OBチームはメンバー募集中です！

OBチームは、東京都社会人リーグと荒川区社会人リーグの両方で活動していますので新メンバーを募集しています。是非、キャプテンであるH17卒の草川君に連絡してください。開成で仲間と楽しんだサッカーを卒業しても続けましょう。

草川君のメールアドレス  
pep\_4\_xavi\_6@yahoo.co.jp

## 全学年忘年会のご案内

変わらぬ面影、なつかしいあの頃  
学年毎にお誘い合わせ、お来ください

- ◆とき：12月5日（木） 18:00～
- ◆ところ：JR 神田駅東口北京料理『好好（ハオハオ）』  
神田ふれあい通り商店街入口右2F  
※『好好』は開成山岳部の先輩のお店です。 TEL 03-3255-8080
- ◆参加費：4,000円 大学生は半額！

### <お詫びと訂正>

「職友」35号の名刺広告におきまして、昭和41年卒の手束邦洋氏の「邦」の字が、「那」となっておりました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。





# 私の青春とサッカー

## FIFAフットサル・タイ2012

### 世界選手権大会 その二

2020年、東京オリンピックが決定した。喜ばしいことであり、この件については是非とも記したいことがあるが、まずは右大会の続きを書き足すことにする。カズこと、三浦和良選手のフットサル代表参入についてとこの大会の結果についてである。

#### カズ参入の是非をめぐって

カズの代表入りが世上の噂になり始めた頃、あるフットサル記者から質問というか、意見を求められた。カズの参入により、フットサル一途に努力してきて、代表入りを目指してきた誰かが、間違いなく弾き出される訳である。その是非についてであった。

フットサルに私が関わってすでに三十数年に及ぶ。この間、フットサルは、ミニサッカー、サロンフットボールと呼ばれた時も、いわゆるサッカー関係者の多くから、誤解と無理解を受け続けてきた。そのような困難な環境の中で、この競技を愛し推し進め、代表選手の育成、選出にも深く関わり、牽引してきた責任者であったのは私である。選手の側に立てば当然、*「ノー」*と言うのではないか、という言外の期待をこめての質問であった。

しかし、私の答えは迷いなく *「イエス」* であった。今でこそかなりの年齢の方々にもフットサルという言葉は知られ、愛好者の

ている。しかし、ミゲルの決断の重さには計り知れないものがあつたことを私は痛感していた。

#### 日本代表の闘い

試合は、参加二十四ヶ国が6グループに別れて予選リーグを行った。日本は、世界ランク2位のブラジル、4位のポルトガル、アフリカ代表のリビアとの、死のグループと呼ばれるCグループにあつた。結果はブラジルに1対4、ポルトガルに5対5、リビアに4対2であった。ブラジルとの1対4は善戦と言つてよく、圧巻はポルトガルとの5対5であった。ヨーロッパ、No1プレーヤーのリカルジーニョを擁したポルトガルは優勝候補にも名を連ねられるチームで、前半は2対5と引き離されたが、何と、後半、日本はパワープレーに打って出て3点を奪い、引き分けに持ち込んだのである。

パワープレーはギャンブルでもある。ひとつ間違えば大量失点の危険があるこの戦術を日本はこの大会で見事にやって見せ、大会に華を添えたのである。監督の面目躍如であった。そして臨んだ決勝トーナメント一回戦の相手は、大会二週間ほど前に旭川で強化の為に親善試合をやつて3対1で勝つたウクライナであった。*「まずい」*と私は心の底で思った。ウクライナは伝統的に驚異的な速攻のチームで、カウンター攻撃を得意としている。しかも旧知の仲である監督のゲンナージは、長年代表を率いてきたキエフ体育大学の教授で稀代の策略家である。彼は旭川では、チームの全貌は見せてはいない。そのチームに日本代表は勝つて、*「やれる」*という感覚を持ったはずであり、互角の戦いを挑むであろう。しかし、相手は明らかに格上のチームである。

昭和三十三年卒 榮 隆男



数は把握が困難なほどの現状ではある。しかし、ここに至るまでには様々な困難があり、危機的状況を何度も越えなければならぬ事態があつたのである。私は常々、フットサルの発展に役立つのであれば路傍の石コロでも使う、と言つてきたのである。まして、かつてキングカズとサッカー界で言われた男の参入である、拒む理由などはまったくなかった。

そして、結果として絶大な社会的関心がフットサルに寄せられたのは今や、周知の事実である。むしろ私の心配は、他の代表選手達が彼をどう受け止め、またカズ自身がどこまでやれるのかということであつた。さらに最も気掛かりだったのは、この決断を下した監督のミゲル・ロドリオのことであつた。よくぞ決断してくれたという思いと同時に、親しい友人である彼が自ら負つたリスクの余りの大きさへの怖れであつた。

嬉しいことに、私の心配は杞憂に終わった。それは大会後の選手達の言葉によく表れていた。代表の中心選手である北原亘は、はじめは「本当に大丈夫かな」と危ぶんだというのである。しかしカズの「学ぶ姿勢」の真摯さと、「フットボーラーとしてのセンス」に納得した、と。また、日本の得点源として今回初めて代表入りしたピヴォの森岡薫は「カズ選手自身はフットサルに對しても、フットサル選手にも、すごく謙虚でした」と語り、カズの人間性に惹かれ、またカズに励まされたことに深い感銘を受けたという。他の選手達も、一様にカズの影響力を肯定し、感謝をし

格下のチームが格上を相手に勝つことはスポーツの世界では往々にしてある。しかしその場合、格下のチームは捨て身で闘わなければ格上を倒す事は出来ない。互角に渡り合つたら必ずやられるのである。心配は的中してしまつた。開始早々インターセプトから点を奪われると、攻撃してはカウンターをくらい、何と前半だけで0対6と打ちのめされた。それでも後半、パワープレーで臨むと、日本も得点を重ね3対6まで迫つたが、そこまでだった。特に痛手だったのは、パワープレーの主力であつた逸見が累積で試合に出られず、高橋健輔が前半に負傷退場、後半、稲葉がレッドカードで退場、パワープレーに必要な人数が足りず圧力をかけきれなかった。試合直後、ミゲルにご苦労さんと声を掛けると、*「前半の失点が多すぎた」*と嘆いていた。

ミゲルとは、その後、個別にゆつくり話す機会を持った。そして、彼のフットサルという競技にかける思いの深さと、日本への愛が監督生命をかけたカズの招聘という決断に至つたという事も親しく知ることが出来、彼への尊敬の念はますます深まつた。

彼が次回大会を目指して再度代表監督になつたことを今、私は我が事のように嬉しく思っている。何故なら、彼の最も大きな関心は少年指導者の育成にあるからであり、それは、私の今と正に一致するからである。

(次号に続く)

榮隆男氏…昭和14年生東京都出身 開成高校卒業  
後早稲田大学に進む。早稲田大学で蹴球部在籍。  
「1960年よりフットサルにかかわり現在に至る。」  
「1983年よりフットサル連盟理事長。」  
「2004年まで日本サッカー協会特任理事(フットサル委員長) 日本フットサル発展の中心的役割を果たす。2006年、同連盟退任」

## 活動報告



### 第3回OB会親睦ゴルフコンペ

恒例となったOB会親睦ゴルフコンペ大会は、今年も10月3日に、藤崎前会長によるお手配で、2014年の日本オープン開催が姉妹コースの梅郷コースに決定している名門コースの千葉カントリー川間コースで、開かれた。当日は、台風による影響が多少心配されたが、参加者一同の日頃の心掛けの良さに、台風は海上に抜けた結果、好天気に恵まれ、前日の雨で、金木犀の甘い香りが漂う中、むしろ陽射しでやや暑いぐらいのコンディションとなった。

今年は、例年に比べやや小人数とはなったが、それでも相変わらず元氣一杯の「モーション」こと元会長奥村氏（昭31卒）を筆頭に、9名の精鋭の参加を得て、お互いしばらくぶりの再会を喜びあいながら、記念撮影後賑々しくスタートに向かった。

大会は、親睦コンペであるので新ペリア方式で行われたが、実力は惜しみなく現れ、昨年もベストグロをマークした船田氏（昭44卒）が76で、ベストグロ優勝を遂げ、準優勝には、今年定年退職を迎えると共に、OB

会新会長に就任した中村氏（昭47卒）が、その勢いもあつてか、前半ショートコースで2つのバーディーを記録するなど、86の好スコアで入り、また5年間に亘った会長職を無事、新会長に禅譲した藤崎氏（昭40卒）が83ながら、順位的には、新会長に一步譲った形で、3位に入った。

一方、順位を下から見ると、敢えて個人名を挙げることは控えるが、昭31卒、昭37卒、昭39卒、昭39卒の順位となっていて、見事に年齢による実力の衰え（？）を示すような結果になっており、残念ながら「年は争えない」ということが、ここでも当てはまることとなった。

プレー後の懇親会では、藤崎前会長のご好意で、優勝 準優勝、ブービー賞に対して、賞品が授与され、望月氏（昭43卒）、及び鎌倉氏（昭47卒）から寄贈された品が全員に参加賞として、贈られた。

また、表彰式で、藤崎前会長の退任挨拶、中村新会長の意欲的な就任挨拶があり、加えて現役チームの活躍、特に、中学チームは、東京都私学大会で、ベスト4に勝ち上がり、東京都代表として首都圏私学大会に参加することになっている等の報告があり、OB会として一層の支援のための会費納入に是非協力をとの話があり、来年の再

会を期して、お開きとなった。

なお蛇足ながら、たまたま、我々のコンペルールの隣で、「たまに開成会」という会が開かれており、「開成サッカー部OB会席」という表示を見て、その幹事役の昭29年卒の（株）千葉カントリー倶楽部取締役の館谷俊雄氏が挨拶に来られ、「たまに



左から中村、橋本、望月、奥村、見方、藤崎、船田、米倉、鎌倉の各氏

開成会」とは、昭29年卒の同期会で、年4回、ゴルフ会をやっている由で、同期のサッカー部では、故服部氏、東氏、松本氏などをご存知の由、大先輩ながら、その澁刺とした様子に我々も大いに元氣を与えられた。

【今回参加者】（卒年順、敬称略）

昭31卒・奥村、昭37卒・橋本、昭39卒・見方、昭39卒・米倉、昭40卒・藤崎、昭43卒・望月、昭44卒・船田、昭47卒・鎌倉、昭47卒・中村 （以上 昭37卒橋本記）

### 2013フットサル大会 & 懇親会



OB会恒例の「OB親睦学年対抗フットサル大会」は6月1日（土）に例年通りジョモニスタ南与野にて開催され、S47卒からH25卒までのOB 50名以上が参加してくれました。3面すべてを貸し切ったコートでは、30歳未満の若手OBが「学年対抗ガチンコフットサル」で厳しいバトルを繰り広げている直ぐ横で30歳以上のOBが「年齢相応のそれなりフットサル」を楽しむといったOB会ならではの雰囲気漂って



ました。ゲーム後の懇親会にも40名近くのOBが参加し大いに盛り上がりましたが、前年の騒ぎ過ぎが影響したのか（？）お店に時間制限をかけられるというハプニングがありました。しかし、飲み足りない若手OBが河岸を変えて飲みまくったのは言うまでもありません。尚、フットサル大会の直前の5月25日に還暦を迎えられた中村副会長兼OBチーム監督はOBチームのメン

バーから還暦祝いのプレゼント（さすがに赤いユニフォームではなかった）を贈られご満悦でした。このフットサル大会は来年も6月に開催しますので奮ってご参加ください。（S60卒安藤記）





(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

※振込先：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ部店）当座 0250029 開成学園サッカー部 OB 会

12